

# 集約化・提案型森林施業 かわら版

## 森林資源を活かす 搬出間伐 を推進しましょう！

- 森林資源** 人工林が成長し、その多くが搬出間伐の適期を迎えようとしています。間伐を確実に実施し、国産材の復権に取り組みましょう。
- 木材需要** 加工技術が向上し、合板や集成材など新たな国産材需要が増加しています。国産材時代の実現のためには、まず搬出間伐の推進、そして施業集約化等による安定供給が課題です。
- 低コスト** 搬出間伐の実現には、路網整備、高性能林業機械の活用、列状間伐を組み合わせた低コスト化を図ることが重要です。
- 災害防止** 間伐は災害に強い健全な森林づくりに不可欠です。間伐材を搬出することで山地災害時の流出が防げます。
- 補助制度** 森林整備事業では、林道端まで搬出・集積する搬出間伐が補助対象となります。低コスト化、販売努力と併せて、所有者負担を軽減できます。箇所によっては収益も期待できます。

### 搬出間伐の実施状況

※7齢級(31年生)以上の人工林における搬出・集積を伴う間伐実施率を都道府県から聞き取りにより集計。安定供給協議会ブロックを基に区分。

#### ○ 搬出間伐の実施率別の都道府県数(平成18年度森林整備事業)

搬出間伐 実施率	全国	北海道 東北	関東	中部	近畿	中国 四国	九州
51%~	8	1	2	1		1	3
31~50%	14	3	2	3		3	3
11~30%	14	1	3	3	3	3	1
~10%	11	1	2	1	4	2	1
計	47	6	9	8	7	9	8



- ・残念ながら、現在は、伐り捨て間伐が多く、搬出間伐は限られています。
- ・搬出間伐の取組には、地域ごとに大きな差があります。

### 搬出間伐が進まない要因は？

◇◇搬出間伐の実施率を見ていくと、都道府県で差があるのがわかります。なぜでしょうか？ ◇◇

#### ① 地形や森林が違うから？

搬出間伐の実施は特定の地形や森林に限られているものではないようです。

#### ② 間伐材は売れないから？

合板工場など大口の需要先が近くになくとも搬出間伐は行われています。長距離でも効率的なトラック運搬が仕組める範囲であれば支障とならないということでしょうか。

#### ③ 搬出間伐できる事業者がないから？

間伐材を効率的に搬出するためには、バックホウなどの土木機械、グラブプルやプロセッサなどの林業機械が必要です。林業機械のベースマシンには汎用の土木機械が活用可能です。

#### 搬出間伐はできないとあきらめていませんか？

地形等森林の状況、大口需要の有無が搬出間伐の採算性に大きな影響を与えているとは限りません。また、高密度路網や列状間伐など作業方法を工夫すると経費の削減と収益増が期待できます。

集約化を推進し、路網整備や高性能林業機械の導入など低コストに取り組み、経費と収入を見極めて搬出間伐の可能性を広げていくことが林業再生の第一歩です。間伐の経費と補助金、自己負担金と間伐材の販売収入とを比較・分析して、搬出間伐の推進に取り組みましょう。

(ここをクリック)補助事業については都道府県にお問い合わせ下さい。

# 搬出間伐の実施率の向上に向けて

## ◆ 林野庁の取組

- ・森林施業の集約化、提案型集約化施業定着のための森林施業プランナー養成に対する支援
- ・低コスト作業システム構築のために必要な作業路作設技術者等の養成
- ・市町村が設定した集約化推進区域内の搬出間伐に対する査定係数の加算
- ・高性能林業機械導入のための支援

## ◆ 森林組合等林業事業体の取組

- ・約200の森林組合が森林施業プランナー育成研修等に参加、地域の集約化行動計画を樹立するなど集約化を推進
- ・全国森林組合連合会が間伐コスト分析シートを作成するなど、より良い施業提案書作成に向けて森林組合を指導
- ・林業機械化センター実施の作業路作設技術者養成研修へ延べ52名が参加

## ◆ 都道府県の取組

### ○ 高齢級間伐と列状間伐の推進(大分県)

4年度より、機能増進保育等の高齢級間伐を重点的に推進するとともに、収益性が高い列状間伐を積極的に推進。19年度から集約化の団地内における路網の作設に対する単独補助事業を創設し、既存の高性能林業機械との組み合わせによる低コスト施業の普及により、更に、搬出間伐を推進。

### ○ 列状間伐モデル林の設置(島根県)

14年度から単独事業により、搬出間伐のための路網整備の補助を行うとともに、搬出間伐について優先採択を実施。19年度に、森林組合と県職員が協力し森林所有者に列状間伐の働きかけを行い、2年間20haの搬出間伐実施の了承を得、また、当該地に列状間伐モデル林の看板を設置し搬出間伐を普及。

### ○ 集約化を行う事業体を支援(和歌山県)

18年度に、試行や検討会を通じて、路網・列状間伐の組合せで山への収益還元が可能と判断。19年度からは、集約化して搬出間伐を行う事業体を支援する県単事業を開始。

### ○ 木材需要の拡大(兵庫県)

22年度に操業予定で県産材の大規模供給拠点を計画。安定的な原木を確保するため、施業の集約化や団地化を促進するとともに、高密路網、低コスト作業システムの導入により収益を森林所有者に還元し、持続可能な森林経営を目指す。

## ◆ 森林管理局の取組

九州森林管理局では、奥山での治山事業や若齢級の間伐などを除く全ての間伐について「搬出できないか」という視点で検討しています。

そして、そのための取組を次のように展開しています。

- ① 企画競争により大規模製材工場、集成材工場、合板工場等の大口需要者を選定し、システム販売を活用した安定的・継続的な供給
- ② 曲がり材の受入可能な集成材工場等への簡素な採材や無仕分けでの供給による歩留まりや生産性の向上、低コスト化、工場直送による流通合理化の促進
- ③ 列状間伐、低コスト路網、高性能林業機械を組み合わせた低コスト作業システムの普及・定着及び民有林との連携

山には、これまで植えて育ててきた人工林があります。

本腰を入れて取り組めば、収穫・販売が可能です。

やる気が重要！！ 搬出間伐に積極的に取り組みましょう。

次回のニュースレターの発行は2008年1月中旬を予定しています。

<http://www.rinya.maff.go.jp/seisaku/sesakusyukai/syuyakuka/newsletter.html>